

子曰く、恭にして礼無ければ、則ち勞す。慎にして礼無ければ、則ち蕙る。勇にして礼無ければ、則ち乱す。直にして礼無ければ、則ち絞す。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「他人に対して表面的に恭しく丁寧な態度をとっても、本当の「礼」つまり神様のお祭りをする際にお神酒を呑んで酔うようなおらかな真心がなければ、骨折損のくたびれ儲けになってしまう。慎重に行動するにも、そうした神様が敬って酔うような解放された気分を持っていなければ、たんに臆病に怖れているだけになってしまう。逆に勇敢にふるまうときにも、やはりお神酒に酔っぱらって自己顕示欲を捨ててしまうことができなければ、他人を傷めつけて喜ぶような乱れた野蛮さに堕ちてしまう。率直であっても、相手に酒を勧めるようなあたたかい「礼」がなければ、単に厳しく絞めつけて、それで立派な指導をしているつもりになっているだけの自己満足に陥る。

孔子の言う「礼」とは、すいぶん深く味わいのある言葉なのだ。改めて思いました。「礼」とは神様に祈る際にお神酒を呑むという意味があることも、初めて知りました。「酒に酔う」と普通は「乱れてしまふ」と考えますが、心からの祈りをなびびり酔うとは、自分の表面を飾っているものを取り払って、正体を顕わすことになりなされるのです。見苦しい酔い方をするが、美しい酔い方をするが、そこで真面目が問われるという二つなのです。それと同様に、自分の表面に貼った余計なものをすべて削り落として、本質本性かじの誠意を風くすという、おまじ出の愛が、「礼」なのだと感じました。